未来を作る者を守る大人になるためにタスマニアで学んだこと

香川県立高松西高等学校
普通科二年　中原智瀬

私は子どもの福祉環境についてタスマニアで学んできた。まずこのテーマを選んだ理由の一つ目は、私は将来、虐待を受けた子どもや貧困家庭の子どものサポートができる仕事をしたいと考えているからだ。二つ目は紛争下の子どもの心理状態を安定させる活動にも携わりたいと考えているからだ。この二つを達成するためには、世界中の制度を知る必要がある。

オーストラリアでは州による地域性を生かしたサービスが一般的だ。例えば介護サービスでの先進的な取り組みや日本にはない地域医療の発展などがある。その中でも子どもの福祉環境でのタスマニア州政府の保護監督の基本的な方針は「施設の規模はより少人数で」「保護の期間はできるだけ短く」「児童の養育は移住してきた市域や家庭の近くに」というものだ。基本的にタスマニアでは子供の虐待や家庭崩壊の状態が深刻化する前に予防するという考え方になっている。児童養護施設では「より少人数の子どもを」「より家庭的」「より短期間で」「より地域に結び付いたところで」処遇しようという考え方が施設の基本理念である。そしてそれぞれの子どもに合った環境が用意されている。例えば障がい児を待つ親から一時的に子どもを預かり、親に休息を与えたり、相談に乗ったりするという環境だ。これは育児疲れによる虐待を深刻化させないという対策だ。その他にも火事、災害、夫の暴力など何かしらの理由により、一時的に住居を失った家族に対し、移住施設を提供するサービスがある。子どもの福祉環境についてホストファミリーに聞いた結果、今の現状は施設の数が少なく、対応が遅くなっているそうだ。また、児童養護施設は多くはなく、里親の数も少ないため子どもたちはいろいろな里親の家を転々としなければならないと言っていた。

これより私は最悪の事態になる前に何が原因なのかを見つけ出し、解決につながるかもしれないため予防するという考え方はよいと思った。また、タスマニアには日本と同じように施設の職員が足りないという問題があるがなぜ足りないのかを考え、改善のために何ができるかを共有していくのもよいのではないかと考えた。さらに慣れ親しんだ環境で生活を続けていくことは友達とも離れなくてもよいし、疲労軽減にもつながるのではないかと考えた。

タスマニアと日本では多くの共通点や相違点があった。この経験を通して学んだことや気づいたことを自分の将来に生かしていきたいと思う。

▲7 月 31 日留学生クラスで日本のお菓子を紹介している様子